

先日、家の片づけをしていましたら、私が子どもの頃の日記帳が出てきました。最初の1, 2ページ破った形跡があったので、少しは書いたのかもしれませんが、何も書いていない日記帳です。

なぜこの何も書いていない日記帳を大事にとっておいたのか。それは日記帳の最後に「星占い」がついていて、それが気に入っていたからです。私は6月生まれの双子座です。「将来きっと、芸術家になるでしょう。ゆたかな想像力と、頭のよさと、ロマンティックな性格が、それを語っています。少し神経質なところがあるので、心を傷つけられやすいのですが、よい友だちをえらぶことによって大きな未来がひらけます。」と書いてあり、この占いが頭の片隅にずっと残っていました。子どもの時のこんなささいなきっかけが「思い込みの強化」になっていたんだと思います。・・・芸術家にはなっていませんが(笑)。もともと絵を描いたり、モノを作ったりするのは好きで、それは大人になった今でも核の部分は変わっておらず、その核に肉付けをしてきたように思います。

幼稚園、小学校の低学年の頃は、長野に住んでいましたが、毎年、どこかの絵画コンクールに花火の絵を描いて応募し、ほぼ毎回入選していました。一度はなにか大きな賞を獲り、その絵が世界中を回って絵の裏にいろんな国のハンコが押されて戻ってきました。そのときの賞品は72色のクレヨン。たくさんの色のクレヨンが箱の中にずらっときれいに並んでいるのを見て、とても感動したことを覚えています。また、車も好きで、ミニカーなどを買ってもらってそれで遊ぶことはもちろん、前から、横から、上からなど、いろんな角度から見て絵を描いたりするのが好きでした。さらに、空き箱などでロボット作りもよくしていて、出来るたびに学校に持って行ってみんなに見せていました。

小学3年のときに岐阜に引っ越しました。友達の影響で自分で組み立てるラジコンカーがどうしても欲しくなりました。子どものお小遣いでは買えないような金額だったので、親に頼んで新聞配達をさせてもらって手に入れました。ラジコンを買った模型店のおじさんやそのお店の常連のお兄ちゃんたちと仲良くなっていろいろ情報を集めて、自分でラジコンカーの改造なども楽しむようになりました。

あるとき、テレビでお茶を運ぶからくり人形を見て感動し、夏休みの自由工作で自分でも作ってみました。人形ではなく、ラジコンカーでの経験を活かして、「お茶運びカー(上にお茶やものを載せるとスイッチが入って走り出し、お茶を取るとスイッチが切れて止まる仕組み)」を作り、アイデア賞のようなものをもらったこともありました。

中学生になると、部活動はバスケットボール部でしたが、それとは別にクラブがあり、バスケの顧問でもあり、技術の先生でもあった担任の先生の「電子工作クラブ」に入っていました。簡単な電子工作キットの組み立てでしたが、小学生の時から使っていた半田ごてなどもさらに上手に使いこなせるようになっていました。

また、中学3年のときの文化祭で、当時人気だった薬師丸ひろ子の絵を応用紙に大きく描いたのですが、直前になって先生から「(掲示物として)芸能人の絵なんかダメだ」と言われてしまいました。しかし、せっかく描いたのだからと、ダメもとで持っていったところ、「こんな絵を期待していた！」と逆に褒められ、体育館のステージ横に掲示してもらえたこともありました。

そんなこんなで、いつのまにか私は、将来は、工業デザイナーになりたいと思うようになりました。しかし、大学受験では2度失敗し、保育の道へと進むことになりました。はじめは落ち込んでいましたが、保育の世界は入ってみれば非常に興味深いもので、今はこの道に進んだことに満足しています。また、自分のやりたいこと、得意なことを生かすこともできます。子どもたちと一緒に楽しむこともできます。子どもたちの遊具をつくったり、絵を描いたりすることも、私にとって、とても楽しい時間です。

皆さんもきっと経験があるかと思いますが、学校の宿題のように、やらされるものに関しては、ちょっとやっっては他のことばかり考えて、なかなか先に進まないものですが、自分の好きなことをしているときは、私の場合、絵を描いたりモノをつくったり、何を作ろうか考えているときなどは、不思議なもので、長時間にわたってとても集中できますし、疲れも気になりません。きっと人間はそのようにできているのでしょうね。

こうして振り返ってみると、なにより、子どもの頃から両親が私のやりたいこと、好きなことをその時々で存分にさせてくれたことが大きかったのだらうと感じ、感謝しています。やらされるのではなく、自分のやりたいことを存分にやってみるという経験は自分を形作るのにとっても大切なんだと思います。子どもの将来を思うなら、その子自身が好きなこと、やりたいと思うことを見つけられるように、もし見つかったら、それを大事にしてあげ、応援してあげることが、きっとその子にとって幸せにつながるのではないかと思います。